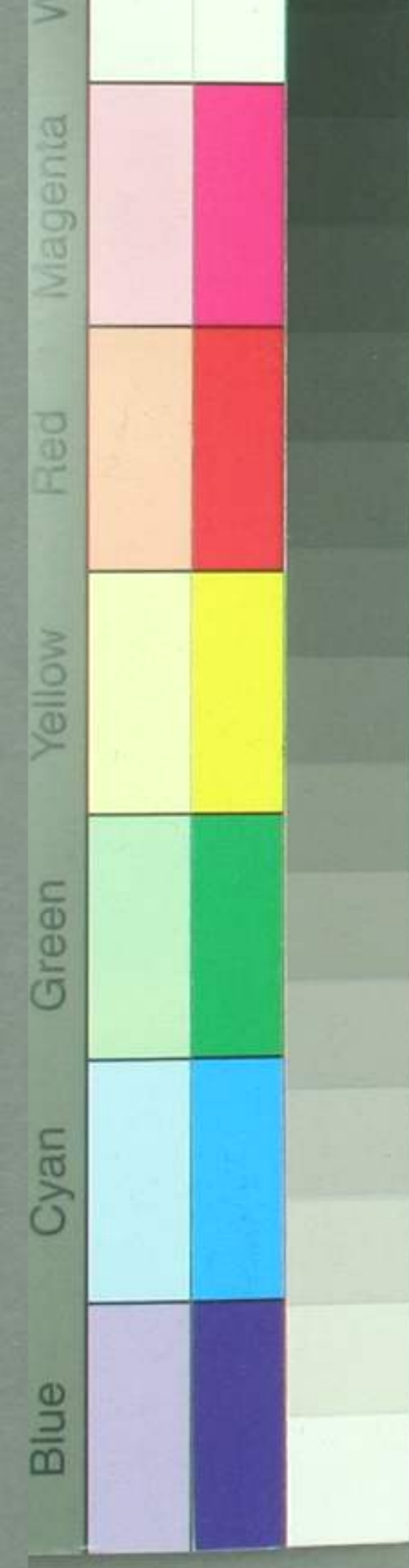


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20



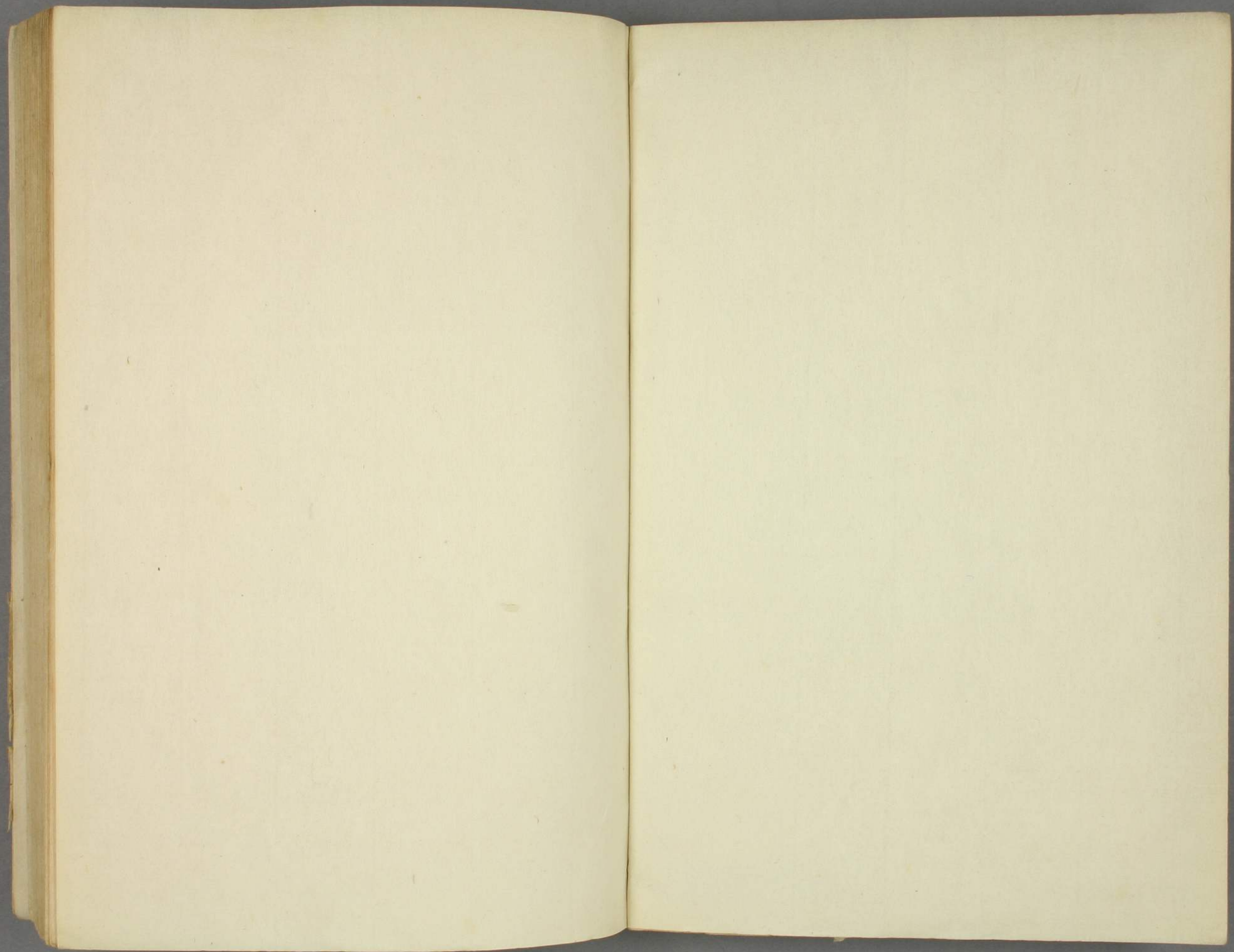
家忠日記

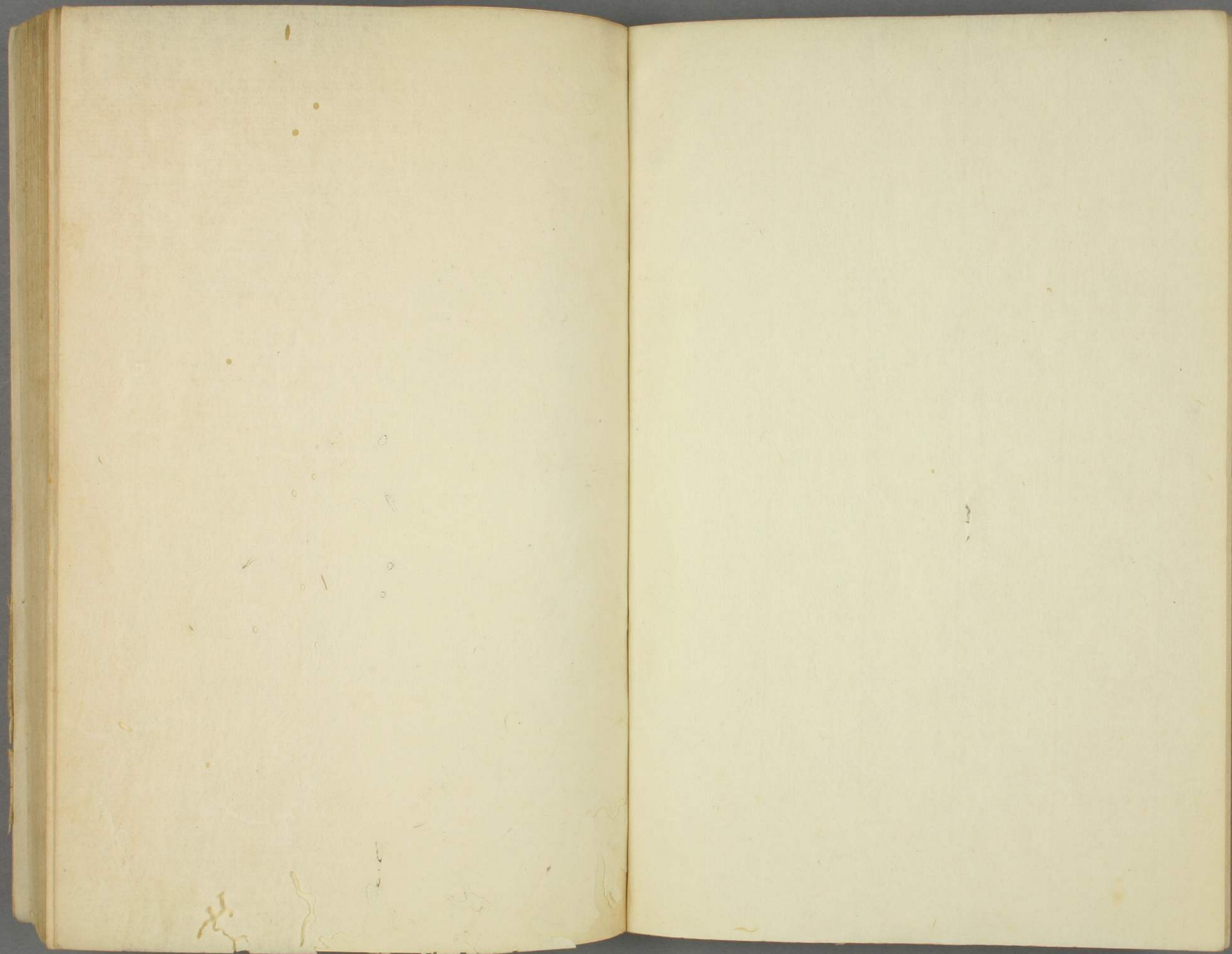
記

五之六

U 5
2687
3

20 1 2 3 4 5 6 7 8





5
2687
3

家忠日記增補卷之五 自天正元年同五年



天正元年癸酉

正月小



三日武田信玄旧冬味方カ原一戦ノ後遠州刑部
ニ至リ越年シ今日軍ヲ發シ丹仲ノ谷ヲ經テ三州野田
將軍義昭使ヲ遣シ信玄ニ謂テ云ク大神君及
ト信長ト交和ナラシメントス信玄是ニ應セス
十日武田信玄兵三萬五千余騎ヲ率テ三州野田

ノ城ヲ圍ム菅沼新八郎定盈後織部
正ト号ス此城ヲ守ル松
平子一郎忠正援兵トシテ菅沼ニ加テ野田ノ城ニ在リ
其兵合テ四百余騎武田信玄多勢ヲ以テ是ヲ攻撃
ツ定盈忠正堅ク守テ拒キ戰ノ間城陥ラス信玄謀
ヲ廻シ金堀ヲシテ城中ノ水ヲ堀尽サシム城兵是ニ
屈シ檄ヲ飛シテ後援ヲ 大神君ニ請フ 大神君
是ヲ援玉シカ為ニ笠頭山ニ至テ陣シ玉フ且ツ
大神君野田ノ援兵ヲ信長ニ請ヒ玉フト云ハ氏信長
果サズ然ルニ野田ノ城兵等 大神君後援アル夏ヲ

知ラス數日渴シテ因窮スルノ間城將菅沼力尽テ
使フ城外ニ出シテ信玄ニ謂テ云ク籠城ノ諸卒等
各一命ヲ助ケラレニ於テハ定盈忠正等カ命ニ替
テ城ヲ出テ自殺セント請フ信玄是ヲ許ス定盈
忠正城外ニ出テ自殺セント欲ス武田カ兵是ヲ謀
テ定盈忠正ヲ擒ニス残ル城兵等皆城ヲ脱シ去
ル依之野田ノ城陥ル信玄定盈忠正ヲシテ山縣三
郎兵衛尉ニ預ケシメニ士ヲ郡内ニ置テ信玄ニ士
ニ示テ云ク志ヲ變テ信玄ニ服セハ厚子ク賞セシニ

士丹心ヲ改メズ信玄使ヲ 大神君ニ赴カシメテ謂
テ云ク 大神君捕置ル、処ノ作キ多ク領長篠等
ヲ山家ニ寄テ 三人ノ質ヲ以テ定盈忠正ト是ヲ代ヘント
ノ士ト云フ 請フ 大神君是ヲ諾シ玉フ

二月小

十五日 大神君ヨリ山家ニ方ノ人質ニ二千余騎ノ軍
士ヲシテ是ヲ送ラシメ玉フ亦菅沼新八郎定盈松平
与一郎忠正ニ武田カ兵二千余騎ヲ相副ヘ廣瀬河上
ニシテ互ニ質ヲ代テ歸リ去ル 長篠菅沼伊豆守作牛與平
監物入道道文殿領菅沼刑

少輔初メ 大神君ニ屬テ質ヲ出ス去年志ヲ復テ武田ニ從フ故ニ其
質ヲ以テ定盈忠正ニ易ヘ玉フ

十六日 信玄病病ニ依テ甲州ニ歸ル

三月大

三郎信康師ヲ帥テ足助表ニ御進發アリ武節ノ
郷主和ラシテ御味方ニ屬ス足助ノ城主鈴木弥兵衛
尉ハ信康ノ武威ニ恐テ其攻ヲ待ズ城ヲ避テ逐電ス
平石七之助親吉ニ命テ天方ノ城ヲ攻メシメ玉フ守
將久野彈正拒リ軍ヲ不得城ヲ奪テ甲州ニ走ル
石川日向守家成久野三郎左衛門尉宗能ヲシテ可

久輪ノ城ヲ攻シテ王ヲ城主出奔ス河井左衛門尉忠次
ヲシテ鳳来寺ノ城ヲ拔シム六笠一ノ宮ノ両城攻ヲ不
待シテ降ル

四月小

武田信玄卒去ス五十男勝頼継テ立ツ信玄卒去ヲ深ク
密シ病病ト称シ

勝頼ヲ軍
代トス

異本ニ四月又信玄三州発行駕茂照山ニ陣取エテ持
病再発仕ニ付甲州へ引入候其節ニ鳳来寺へ參詣
被申候衆ト罷出候へハ薬師堂ニテヒシヤモノ法ヲ

行ヒ被申候其時シテ下大儀ニ御出馳走満旦候今度ハ
病病再発帰国候重而發行可申候ト被申山下
被申候其節寺僧イワウ院カツシキニテ申候此僧
咄ニテ遠州大福寺住僧報恩院咄懃ニ承知仕候
信玄三州信州堺子バ子ト云処ニテ死去

六月大

一屋城山ノ両所ニ砦ヲ構ヘ二股ノ敵ニ備ヘ大神君濱
松ニ還リ玉ヲ奥平美作守貞能同男九八郎信昌
後ニ美作
守ニ改ム大神君ニ来服ス

七月大

十九日 大神君兵ヲ卒テ長篠ノ城ヲ攻メ玉フ火箭ヲ發
テ二ノ丸ヲ燒シメ玉フ依之城中ノ兵器軍糧ヲ燒失ス城
兵本丸ニ迫リ守將諸賀小泉吉田守リ拒クト云ハ
本多平八郎忠勝柳原小平太康政是ヲ謀ルニ因テ城兵
氣屈シカスル奥平美作守負能男九八郎信昌

大神君ニ忠ヲ通スルノ由ヲ聞テ武田左馬助彼カ逆意
ノ實否ヲ知シカ為ニ負能ヲ黒瀨ニ招テ云ク負能野
心有ノ旨多嶺カ臣道壽翁是ヲ告ルノ由ヲ云フ負能

陳テ云ク此時ヲ得敵回者ヲ以テ内ヲ離スノ謀アリ
負能ニ於テ全ク野心ナシ間人ノ謀言ヲ信テ無ニ味
方ヲ疑フ事短慮タルノ由言ヲ及テ陳スル間左馬助
頓ニ疑心敢テ却テ負能ニ懇意淺カラスシテ味方
密謀ヲ談ス負能作手ノ城ニ歸テ其夜男九八郎信昌
ヲ推テ作手ノ城ヲ退リ武田カ兵是ヲ聞テ撃テ留シ
ト競ヒ追フ石堂金坂也ニ於テ負能返シ合セ挑戦
テ敵數十人ヲ撃テ捕ル武田カ兵是ニ辟易シテ敢テ
追フ事ナシ負能兵ヲ全シテ退リ負能返テ

大神君是ヲ達テ此夜ヲ約シ定ニ依テ 大神君ヨリ
松平主殿助伊忠本多豊後守康孝男彦次郎康重
ヲシテ貞能信昌ヲ廻ヘシメ玉フ貞能父子宮崎瀧山
着ク翌日 大神君ノ命ニ依テ平山石七之助親吉内藤
金一郎援兵トシテ且ツ貞能カ陣ニ馳加尔貞能微勢
タルニ依テ宮崎瀧山ヲ引退スノ間援兵ノ部将等モ
兵ヲ収テ濱松ニ帰ル

八月小

廿一日武田カ兵五千余騎作手ノ城ヨリ進テ宮崎瀧山

ニ出張ス貞能信昌二千余騎ヲ卒テ再々瀧山ノ岩ニ歸
テ近郷ニ放火シ瀧山ニ陣ス僅ニ柵一重ヲ結テイニテ屏
ヲ構得ズ敵競ヒ来ルノ間貞能信昌父子進テ瀧
山ノ麓ニ下リ拒キ戦フ敵利ヲ失テ敗走ス貞能勝
ニ乘テ是ヲ追ヒ討ツ敵田原坂ノ辺ニシテ數回返シ
合セテ挑戦フ爰ニ於テ武田カ軍士奥平助四郎ヲ
始メ五十余人戦死ス 大神君ヨリ援兵トシテ再々本
多康孝其子康重ヲシテ貞能カ兵ニ加ヘシメ玉フ貞能
進テ作手表ニ軍ヲ祭ス作手ノ城ヨリ敵出張シテ貞能

ト戦フ負能大ニ勝テ敵ヲ多ク討
ス武田勝頼負能信昌力逆意ヲ怒
テ甲府ニテリ是ヲ捕テ磔ニス

九月六

諸賀小泉吉田長篠ノ城ヲ保ツ事
頼長篠ノ城既ニ降ル莫ク知ラス諸
ニ陣ス武田道遠野森ノ郷ニ於テ本
小平太康政大須賀五郎左衛門尉康
重次等ト挑戦フ武田カ兵軍ニ利

カ二手ノ兵ヲ以テ是ヲ救ント進ムト
卒ヲ指揮シテ軍ヲ速ニ引取ラ
為方ナク軍ヲ収テ甲州ニ帰ル馬
口ニ向フ彼レカ據險隘タル依テ
事ヲ得玉ハス故ニ松葉ヲ即味方
千是ヲ燒カシメ詐テ兵ヲ引テ退
ヲ待タシメ玉フ敵果テ軍舎ヲ燒
或ハ五騎或ハ三騎馳来ル時ニ即
敵驚キ騷テ退散ス奥平信昌

押リ嶋田ノ郷ニ放火
テ信昌カ妻質トシ

ヲ得ス甲州ニ走ル勝
將ヲ遣テ遠州所
多平八郎忠勝柳原
高本多作左衛門尉
大テ敗北ス此山一条

云ハ氏本多柳原士
シム依之武田カ兵
勿美濃守鳳来寺
神君是ヲ攻撃手ツ
陣中ニ積テ火ヲ放
キ伏兵ヲ設ケテ敵
テ敗ニ去ルト察シテ
味方ノ伏兵卒ニ起ル
命テ長篠ノ城ヲ

守ラシメ 大神

ニ武田勝頼

ナシ勝頼三州

是ニ應テ武

約ス植村土佐

者タニ依テ此

弥三浦九兵衛

半兵衛尉ヲ召

ノ賊徒等敵

キノ由而昔ヲ

姓黒右衛門尉

濱松ニ帰ル地

武田勝頼師

ニ至リニ俣乾

ヲ巡視シテ帰

築ク武田左

大神君信康ニ

君ノ御女ヲ以テ信昌ニ嫁セシメ玉フ既

三州ヲ侵サント欲スルト云ハ其利

鳳来寺也ニ揆ラ催ス一揆ノ賊徒等

山カ兵ヲ鳳来寺ヨリ国中ニ引入ント

寺表忠初鳳来寺ノ別當
安養院ト号ス鳳来寺表案内

ヲ聞テ 大神君ニ達ス 大神君本多三

尉久貝市右衛門尉福尾五右衛門尉渡辺

命有テ曰鳳来寺ノ敵境ニ近シ一揆

ニ脱レ去ラサルヤウ是ヲ謀テ搦捕ルハ

テ各彼地ニ突向ス渡辺半兵衛尉同

弟賊徒ノ長本人ヲ擒シ是ヲ推テ

神君渡辺兄弟カ速成ノ功ヲ褒セラル

入帥テ遠州表ニ出張シ進テ見付ノ府

高ニ赴ク此次テニ遠州諏訪ノ原ニ一城ヲ

敗助馬場美濃守是ヲ監ス此年

馬テ足助伏地等ノ城ヲ攻撃タシメ玉フ

天正二年甲戌

正月大

一日諸士遠州濱松ノ城ニ登テ大神君ニ謁テ新ニヲ祝ス
二日夜ノ例ノ如ク濱松ノ城ニ於テ御謚初アリ諸士參賀ス
五日大神君正五位下ニ叙シ玉フ

二月小

八日大神君ノ男子誕生故有テ本多作左衛門尉重次ノ
家ニ養育シ奉ル成長ノ後下野國結城左ノ門佐晴朝男子ナキニ
因テ聲トシテ結城ノ家ヲ繼シム依テ結城秀康
權中納言從
三位下号ニ至大神君ノ男子本多作左衛門尉重次ノ家ニ

養育シ奉ルト有リ是非也遠州守布見郷中村源左衛門尉
正吉屋敷へ御忍天正二年甲戌二月八日誕生シ玉フ守布見ニ
采大明神ハ秀康公産神也天正十四年丙戌三月大神君ヨリ
采大明神社堂造営シ玉フ本多作左衛門中村源左衛門
棟札今モ采大明神宮ニ有リ源左衛門屋敷夫ヨリ免許ノ地
ニ成也秀康公御童名於義丸ト号延寶八年ノ頃秀康
公御誕生シ玉フ跡青山和泉守ヨリ石垣廻リ井垣終覆
ヲ加ヘ玉フ松平大和守直矩ヨリ青山和泉守へ井垣終覆
礼状被遣候其返状守布見ニテ中村源左衛門所ニ有

之趣御一門

十三日勝頼

衆人は是ヨリ

守座光寺

長秋山下和

辺ニ坐テ

ヲ拒ク

十八日織田

卷之四

六日大神

シ玉ヲ諸

糧米ヲ

七郎右衛門

主天野宮

鶴殿藤

水野忠重

數十級ヲ

大神君兵

十四日武田勝頼二月中旬ヨリ此月ニ至テ濃州數城ヲ陷シ武
威ヲ震ヒ進テ明知ノ城ヲ攻ル時信長多勢ヲ卒テ明知
ノ城ニ後援ス山縣三郎兵衛尉六千余騎ノ兵ヲ卒シ信長カ
先途ヲ塞テ鶴田山ニ廻ル信長是ヲ聞テ退キ去ル依テ勝頼
明知及ヒ飯桶ノ兩城ヲ安ク拔テ兵ヲ収テ甲州ニ帰ル

五月小

廿七日武田勝頼高天神ノ城ヲ圍テ攻撃シ城主小笠原
左八郎ハ其先キ今川家ノ臣タリト云ヘ氏頃年 大神君ノ
麾下ニ屬シテ此城ヲ守ル故ニ駿州ノ先方岡部丹波守

同姓次郎右衛門尉等ハ小笠原ト連年ノ友タリ互ニ其剛
臆ヲ耻テ詞ヲ合セ勇ヲ震テ挑戦フ小笠原使テ濱松ニ
馳テ援兵ヲ 大神君ニ請フ 大神君是ヲ諾シ玉ヒテ高
天神御進兵ヲ催サル

六月小

十日 大神君高天神ノ城兵ヲ援兵ニシカ為師ヲ帥テ
濱松ノ城ヲ御進兵アリ

十七日 大神君使テ岐阜ニ至テ高天神ノ援兵ヲ請ヒ
玉フ信長是ヲ諾ス勝頼自国ヲ離レテ遠ク高天神

追出張スル者莫是願フ加
シテ 大神君ト執カテ并ニ
ト信長頻ニ出勢ヲ催ス
トシテ二万余騎ノ兵ヲ
天神ノ城ヲ攻ル者太ク多
破レテ勝頼小笠原ヲ謀
志ヲ變テ勝頼ニ降テ
下方ニ退ク織田信長

吉田ニ至リ進テ今切レ
カ及キ敵ニ降ルト聞
ヲ引テ吉田ニ歸リ
曰勝頼屢屢近國ニ出
依テ我カ心ヲ勞スル
互ニ治國ノ制法ヲ議
去年ヨリ遠三兩國稀
大神君ハ黄金ニ袋ヲ
廿日勝頼高天神ノ城

ノ幸也高天神ノ城兵等是
謀テ留メ信長連ニ及向
勝頼ヲ討ニ支掌ヲ指カ如
織田信長高天神ノ城後援
糾テ岐阜ノ城ヲ及テ勝頼高
坐テ然レ氏城兵能守テ敢テ
今地ヲ割テ招ク依テ小笠原
高天神ノ城ヲ避渡テ富士
高天神ノ城後援トシテ三州

渡リニ着ク于時小笠原氏節
高天神ニ及向スルニ及兵
大神君ニ来會シテ信長謝テ
入ルルト云ハ氏 大神君ノ武威
變ナク漸天下ヲ平クト謂テ
セラレ信長歸路ニ赴ク于時
來テ不作タルノ間信長
進セラル 華ノ袋ニ入レテ二人
シテ是ヲ捧テ出ス
陥レ城東郡ヲ從ヘ兵ヲ

収テ甲州ニ歸ル此日信長岐阜ニ歸リ入ル

八月小

二日 大神君遠州馬伏塚ノ田墨ヲ築カシメ大頭賀
五郎左衛門尉康高ヲシテ是ヲ守ラシム小笠原次
郎カ田領ヲ康高ニ賜ル

九月大

七日武田勝頼二万余騎ヲ卒テ濱松ノ城ヲ襲キト
伺ヒ天竜河辺ニ屯ス大神君濱松ヨリ軍ヲ發シ玉
其兵七千余騎陣ヲ分ツ支九列トシテ小天龍ノ

岸ニ陣シ玉ヲ勝頼カ兵天竜川ノ中ノ瀬ヲ避テ進ミ来ル
酒井左衛門尉忠次カ諫言ニ依テ 大神君兵ヲ濱松
城ニ収メ玉ヲ勝頼モ亦天竜川ノ陣ヲ退テ二俣ニ赴
キ丹伊ノ谷ニ至テ平山越ヲ經テ信州伊奈ニ着
勝頼カ祖父信房此処ニ来會ス于時信房武田信玄
卒去スルノ事深ク是ヲ密スルト云ヘ斥近國ニ推察
シテ是ヲ疑フ北条氏政其實否ヲ知シカ為ニ板部
岡江雪斎ヲ使トシ甲州ニ赴カシメ信玄カ病病ヲ問
フ武田カ家臣等相儀シテ信玄カ弟道達道野

ヲ以テ信玄ト号テ夜ニ入り燈ヲ遠
テ江雪斎ニ面ス
夜陰燈明カナラナルニ依テ江雪
シ道逆軒ヲ信玄
ト見誤ル江雪斎小田原ニ歸テ信有存命由ヲ民政
ニ告ル然リト云ヘ凡去年奥平又
大神君ノ麾下
ニ屬シ信玄卒去スルノ事ヲ
大神君ニ告ルニ依テ
遠三兩國ニシテ信玄カ死編カ是ヲ知ル
勝頼墨ヲ三州鳳来寺ニ築テ
甲州ノ兵ヲシテ是
ヲ守ラシム酒丹左衛門尉忠次
大神君ノ命ヲ奉テ兵
ヲ鳳来寺ニ送テ敵ノ城下角屋
村ニ放火ス城兵出テ

是ヲ拒ク忠次戰大ニ勝テ敵ヲ數

々撃テ捕ル

天正三年乙亥

正月大

一日群臣遠州濱松ノ城ニ登テ大神君

謁シ新正ノ賀儀ヲ

二日夜ニ入例如ク濱松ノ城ニ於テ即

初アリ諸士參賀

二月小

十五日大神君濱松ノ城下ニ御放座

アリテ時路也ニシテ

大神君并伊萬千代千時十五歳後三兵部ヲ見玉ヒ誰カ家ノ童子ナル由ヲ問セ玉フ并伊信濃守直満カ孫肥後守直親カ愚子也継父松平源太郎カ好ミ依テ御城下ニ蟄居スルノ旨ヲ達テ台聽驚カレ即日万千代ヲ召テ麾下ニ屬ス并伊ノ谷ニ元祖歴代白領タルニ依テ万千代ニ賜テ并伊ノ谷三人衆及ヒ与カノ士ヲ附ラレ又木俣清左衛門尉ヲシテ万千代ニ附シメ玉フ十八日前夜天野三郎兵衛尉康景カ下女連歌ノ発句ヲ夢ル吉兆タルニ依テ康景今朝 大神君ニ披露ス今

月廿日御鐘ノ賀儀アリ此日連歌ノ達者ヲ召テ彼ノ発句ヲシテ百韻ノ連歌ヲサシメ玉フ此年ノ夏長篠ノ軍ニ 大神君大ヒニ利ヲ得玉ヒテ武田カ爪牙ノ臣ヲ多ク討捕ラシメ玉フ是ヨリ嘉例トシテ三月廿日連歌ノ會ヲ催サシメ玉フ

四月大

五日勝頼兵ヲ卒テ遠州平山ヲ經テ三州牟利ニ至ル大神君ノ奴僕大賀彌四郎ト云者アリ卑賤ノ者ナリト云ヘ凡田切譜代ノ者タルニ依テ奥郡二十余郷ノ代

官職ニナレ家富ミ子孫繁栄シテ君恩厚キノ如
ニ不美ニシテ野心ヲ企倉地卒左衛門尉山田八藏小
谷甚右衛門尉トテ武田勝頼ニ志ヲ通シ三州岡
崎ノ城ニ甲州ノ兵ヲヒキ入ント謀ル勝頼大ニ悦テ其
約ヲ定メ既ニ兵ヲ岡崎ニ祭ントス于時山田八藏志
ヲ変テ竊ニ此企ヲ三郎信康ニ告ル依之信康大賀
弥四郎ヲ謀リ召テ生捕ラシメ五ツ倉地卒左衛門
尉ハ德謀露顕スル事ヲ察テ戦ヒ死ント進テ出ル岡
崎ノ兵士等馳集テ是ヲ殺テ其首ヲ濱松ニ献ス

谷甚右衛門尉ハ遠州ノ国領ニシテ服部半蔵是ヲ擒
ニセト欲ス天竜川ヲ游キ涉テ二俣ノ城ニ免レ夫ヨリ
亦甲州ニ走ル野心ノ本人大賀弥四郎ヲシテ是ヲ縛
シテ旌ヲサシメ其罪ト彼カ姓名ヲ是ニ書テ遠三
両国ヲ引渡シテ岡崎ノ町口ノ辻ニ生ナカラ土中ニ
埋テ竹鋸ヲ以テ是ヲ截シム七日ニシテ遂ニ死ス大
賀カ妻其子四人ヲ捕テ三州念志原ニ磔ニス
廿日勝頼長篠ノ城ヲ圍ム奥平信昌援兵松平
外記伊昌拒キ守ル

五月小

六日勝頼兵ヲ分テ火ヲ二連木牛久保ニ放ツ

同日 大神君吉田ニ陣シ玉フ信康山中ノ法蔵寺
ニ屯シ玉テ勝頼カ先鋒ト吉田ノ城外ニ戦シメ玉フ戸
田左門大津土左衛門尉槍ヲ合セ武勇ヲ震フ

七日酒井左衛門尉忠次吉田ノ城外ニ於テ山縣三郎兵
衛尉ト詞ヲ合セ奮戦フ勝頼カ兵敗走ス

十日 大神君小栗大六ヲシテ岐阜ニ赴カシメ長篠ノ城後
援ノ兵ヲ請ヒ玉フ信長是ヲ諾ス

十一日勝頼カ兵長篠ノ城渡合南門ヲ攻ム城兵能ク是ヲ
拒クニ依テ武田カ兵退ク

十三日長篠ノ城後援トシテ信長岐阜ヲ發ス

同日勝頼カ兵長篠ノ城亂丸ヲ攻ム信昌士卒ヲ指揮
シテ矢ヲ發シ火炮ヲ飛シテ是ヲ拒カシム暫時ノ間ニ守手
ノ兵無ク蒙リ命ヲ殞ス者百余人ニ及フ依テ武田カ兵利
ヲ失テ退ク

十四日長篠城中ノ糧漸ク尽キ守兵飢渴ス依テ信昌急ニ
援兵ヲ請ニカ為夜ニ入島居強右衛門尉ヲシテ宍竊ニ長篠

ノ城ヲ出ス

十五日鳥居因崎ニ至ル同日信長因崎ニ着ク鳥居信長ニ謁シ城中ノ狀ヲ語り援兵ヲ請フ信長許諾ス同日信長牛久保ニ至ル軍勢追々馳セ加テ凡五萬余騎

ニ成フ

十六日夜半鳥居長篠ノ城ニ歸リ来テ武田陣ノ柵ヲ破テ城中ニ入ント欲ス敵是ヲ怪テ鳥居ヲ擒ニス勝頼鳥居ニ謂テ云ク汝城辺ニ至リ相知者ヲ呼テ大神君及ヒ信長長篠ノ城ヲ救フ莫ク得スト云フハ三然ラハ城兵困

勞シテ必ス我レニ降ルヘシト鳥居是ヲ詐リ諾ス故ニ勝頼兵ヲシテ是ヲ護セシメ城辺ニ歩セ寄スル鳥居約ヲ變テ大ニ呼テ云ク大神君信長近日後援トシテ此城ニ御祭向アリ天運開ル事三日ヲ過クヘカラス堅ク城ヲ守ルヘキノ由ヲ告ル城兵是ヲ聞テ大ニ悦フ勝頼怒テ鳥居ヲ磔ニス

十七日信長野田ニ至ル

十八日信長進テ設楽ノ郷極樂寺山ニ陣ス男信忠御堂山ニ屯ス大神君八劍高松山ニ陣シ至テ勝頼兵

ヨ分テ長篠ノ城ノ拒キトシテ小山田備中守等二千余
騎ヲシテ守ラシム鳥ヶ巢ノ城ハ武田兵庫頭三枝
松島ヶ由左衛門尉具外諸卒人名和無理之助五味子
惣兵衛尉飯尾弥四右衛門尉等ヲ隊長トシテ是ニ加
ヘシメ兵二千余騎ヲシテ城ヲ守ラシム

廿日酒井左衛門尉忠次竊ニ大神君ニ達テ云ク兵ヲ卒テ
陰道ヲ廻ラシメ不意ニ起リ鳥ヶ巢山ノ城ヲ攻破テ
長篠ノ城寄キノ陣營ニ放火シ其利ニ乘テ勝頼カ後
軍ヲ襲ヒ攻メハ敵狼狽シテ必ス敗スヘシ 大神君是ヲ

許シ玉テ忠次ヲシテ是ヲ信長ニ告ケシメ玉フ忠次信長ノ
陣ニ往テ此謀ヲ議ス信長怒テ曰ク汝カ謀大ニ愚也忠
次赤面シテ既ニ退ント欲ステ時信長忠次ヲ聞所ニ招
テ謂テ曰ク汝カ謀最善シ此計略他聞ニ漏ル事ヲ
恐レテ我偽テ汝ヲ怒ル忠次是ヲ聞テ悦ビ檢使ヲ
信長ニ請フ信長諾テ青木新七郎加藤市左衛門
尉金五郎八佐藤六左衛門尉ヲ以テ是ニ副フ

大神君ノ命ヲ奉テ松平主殿助伊忠具子又八郎家忠
後ニ主殿 木多豊後守廣孝具子彦次郎康重後

豊後守松平左近将監忠次後三周防守牧野新次郎
ト号ス康成後三右馬菅沼新八郎定盈後三織部松平玄蕃
允清宗西郷孫九郎家員後三彈正左衛門酒井忠次加
ル其兵并テ三千余騎大雨ヲ凌テ河ヲ涉リ南山ヲ経テ翌
曉天ニ雲ノ巢山ニ至ル其道險難タルニ因テ奥平監物乃ヒ
名蔵喜八郎ヲシテ郷導トス。

廿日黎明勝頼一萬余騎ノ兵ヲ卒テ瀧沢川ヲ涉テ二千余
町出張シ陣ヲ分ツ事ヲ十三隊トシテ 大神君乃ヒ信長
ノ陣ニ向フ信長ノ陣瀧川左近将監一益木下藤吉郎秀

吉丹羽五郎左衛門尉長秀ヲ以テ先隊トス甲州ノ兵ハ馬上
ノ達者タルニ因テ柵ヲ結事三重銃炮三千挺ヲ撰ヒ集テ
佐々内蔵即成改前田又右衛門尉利家福富平左衛門尉
塙九郎左衛門尉野々村三子郎等ヲ以テ隊長トシテ敵馬
ヲ馳テ味方ノ陣ニ驅入ント欲セハ銃炮三千挺ヲシテ文ルニ千
挺ヲ以テ是ヲ放サシムヘシト其令ヲ定ム 大神君乃ヒ信長
ノ軍勢勝頼カ陣ニ備テ未戰ノ処ニ武田カ陣ヨリ乍候トシ
テ軍士三騎馳出ル 大神君ノ兵内藤甚五右衛門尉善教
同姓弥次右衛門尉ヲ以テ是ヲ射ル其間遠シテ中ラズ

然ト云ハ尺敵此方孰ニ恐テ北ケ去ル大久保治右衛門尉
忠佐其兄七郎右衛門尉忠世ニ謂テ曰ク今日ノ軍尾州ノ兵
ハ援兵也三州ノ兵ハ主戰トシテ尾州ノ兵ニ先ヲセラレハ當
手ノ耻辱タルヘシト議テ大神君ノ賢慮ヲ伺フ大神君
是ヲ許シ玉フ日下部兵右衛門尉成瀬吉右衛門尉ヲ以テ隊
長トナサシメ諸卒ノ中ヨリ銃炮ノ達者ヲ撰ヒ出シテ歩
兵トシテ大久保治右衛門尉忠佐ニ相副ラル忠佐先鋒ニ進
ム成瀬吉右衛門尉ハ先年故有テ三州ヲ退キ甲州ニ往テ
信玄ニ屬スル夏年アリ其後再ヒ三州ニ歸参シテ

大神君ニ奉仕ス依之成瀬武田家ノ部將及ヒ旗指物是ヲ
分明ニ見知ル然ニ依テ今度ノ軍ニ成瀬ヲ使番トシテ先
鋒ニ加ヘシメ玉フ大久保忠佐士卒ヲ指揮シテ武田カ陣ニ
火炮ヲ放サシム武田カ兵是ニ擬議セズ進ミ来リ廣
瀬郷右衛門尉小菅五郎兵衛尉三科傳右衛門尉等能
ク戰テ疲ヲ蒙テ退ク大久保七郎右衛門尉忠世渡辺半
十郎先鋒ニ進テ敵ヲ攻討ツ山縣三郎兵衛尉其兵三
千余騎ヲ卒テ進ミ来テ信長ノ兵伏久間右衛門尉信盛
ト相戰テ柵ヨリ中へ伏久間カ兵ヲ追ヒ入ルテ時

大神君陣ヨリ是ヲ救テ輕卒ヲ進メ頻リニ銃炮ヲ放サ
シム山縣三郎兵衛尉カ軍勢過半是ニ中テ死亡ス殘兵
依久間カ陣ニ敗シカル信長又輕卒ヲシテ是ヲ射サシ
ム山縣カ兵狼狽シテ離散ス此ニ於テ山縣カ鞍ノ前
輪ニ銃炮中テ即死ス武田道遠軒カ兵モ又敗走ス小
幡上総女是ニ入替ル 大神君ノ臣石川伯耆守數正馳セ
合テ是ト戰フ大久保忠世其弟忠依内藤三左衛門尉信成等
敵ヲ謀テ會釈シ柵近ク馳寄セ一同ニ銃炮ヲ放サシム敵
敗北ス武田左馬助進テ奮戰フト云ハテ敗兵救事ヲ得

ス利ヲ失テ退ク馬場美濃守真田兄弟伍ヲ乱サズ
兵ヲ整ヘ進ミ来ル瀧川左近將監一益依久間右衛門
尉信盛輕卒ヲ指揮シテ三千挺ノ火炮ヲ放サシム
大神君ノ御陣ヨリ圍ヲ發テ攻撃テ馬場是ニ擬議セ
ス勇ミ進ム于時 大神君ノ臣石川伯耆守數正本多平八
郎忠勝鳥居彦右衛門尉元忠大久保七郎右衛門尉忠世
平岩七之助親吉等ヲ勇ヲ震ヒ街ヲ尽テカ戦ス馬場
カ軍勢是ニ辟易シテ進テス後軍乱レテ敗セントス時
依久内藏助成政信長ニ謂テ云ク敵ノ陣既ニ敗亡ノ

色アリ味方ノ軍勢カウ倍シテ急ニ是ヲ攻撃シタハ敵必
大ニ敗セン信長是ヲ可テリト謂テ則瀧川一益ヲシテ
先鋒ニ加ヘシメ大神君及ヒ信長兩將ノ兵ヲ并テ同
ニ圍ヲ登テ急ニ攻撃シツ武田カ兵原隼入正跡部大炊
助小山田兵衛尉小幡耳利望月安中等挑ニ戦フ雙
軍ノ色天ヲ響音シ呼聲ノ音地ヲ動ス右軍ハ真田源太
左衛門尉信綱同姓兵部少輔土屋右衛門尉馬場ニ入
替テ挑戦フ真田兄弟信長ノ陣ノ柵ヲ破テ攻入ラシ
ト欲ス爰ニ於テ疾ヲ蒙テ死ス土屋右衛門尉遂ニ柵

ヲ破テ柵ヨリ内ニ進テ入勇カラ震テ戦死ス馬場カ七百
余騎戦ヒ死シ残兵僅ニ八十余騎武田カ兵或ハ疾ヲ
蒙リ或ハ戦死シテ残ル者少ナシ勝頼既ニ自殺セント
ス時ニ馬場美濃守内藤修理亮残留テ競ニ来テ強
敵ヲ支テ暫シ戦テ遂ニ死ス塙九郎左衛門尉カ從卒
河合三太郎馬場カ首ヲ得タリ今川氏真カ軍士朝比
奈彌太郎内藤修理亮カ首ヲ得ル朝比奈氏真ヨリ使テ
来テ高名ヲ遂ル本多作左衛門尉重次武田カ兵七八騎ノ中ニ
驅ケ入り組討シテ首級ヲ得タリ残ル敵ト苦戦シテ

七ヶ処ノ疵ヲ被ル重次カ從士馳セ来テ敵
依之重次必死シ免ル馬場内藤カ戦死ス
賴土屋惣藏初麻野傳右衛門尉二人ヲ推
出テ戰場ヲ脱レ去ル前夜鷹ノ巢山ニ赴リ酒
忠次松平主殿助伊忠男又八郎家忠卒多豊
男彦次郎康重松平九近將監忠次菅沼新
郷孫九郎家貞牧野新次郎康成松平玄蕃
赤五郎八近長青木新七郎加藤市左衛門尉
門尉等軍ヲ不意ニ發テ鷹ノ巢山ノ敵ヲ攻

人ヲ討ツ
同ニ勝
クハ萬死
丹左衛門尉
後守廣孝
公郎定盛西
九清宗金
北藤六九工
勝賴カ兵

武田兵庫頭信實三枝松勘ヶ由左衛門尉飯
門尉五味ト惣兵衛尉名和無理之父是ヲ字
拒ク事ヲ得ス酒井左衛門尉忠次松平主殿
議テ敵ノ後陣ニ火ヲ放テ圍ヲ死ス敵離
テ乱ス于時長篠ノ城兵門ヲ閉テ進テ出
撃テ敵悉ク敗亡シテ部將武田兵庫頭信
勘ヶ由左衛門尉及ヒ名和無理之父等武田カ
死ス又長篠ノ城ノ拒キ小山田備中守諸賀入
兵衛尉等己カ陣營ニ火ヲ放テ退ク御味カ

先弥四右衛
ルト云ハ氏
助伊忠下
敵ニテ伍
則後ヨリ攻
貫三枝松
兵多ク戦
道相木市
ノ城兵利

ニ乗テ是ヲ追ヒ撃テ三州深溝ノ城主松平主殿助伊
忠軍以前ニ其子又ハ郎家忠後ニ主殿
助トラスヲ招テ云ク吾此度
必ス先登シカリ尽シ戦ヲ決セニ縱ヘ武田カ兵多勢ヲ
云トモ豈一方ヲ破ラスト云モ有ニヤ然リト云ハ氏敵多
勢ナリ吾必ス戦死ヲ遂ニト欲ス汝自身ヲ全シテ
大神君ニ奉仕シ家名ヲ継テ忠義我ヲ励スヘシト謂テ
其負フ処ノ矢室ノ鹿モヲ切テ肴トシテ暇乞ノ不量ヲ
ス于時又ハ郎家忠父伊忠ト共ニ死ナント欲テ此陣ヲ
去ラス伊忠怒テ云ク汝今又ニ死ナハ其志勇ニ似タリト

云ハ氏父子共ニ命ヲ殞シテ家ヲ断ツハ孝ニ非ス命ヲ
全シテ君ニ奉仕スルハ是忠也汝今テ伊忠ト共ニ戦死ス
ハ忠孝ニ非スト伊忠言ヲ尽ス家忠其理ニ服ス于時伊
忠悦テ士卒ヲ分テ家忠ニ付ケ父子相別テ伊忠進テ
武田カ多勢ノ退クヲ追テ岩城ノ渡リヲ越テ是ヲ遮
リ留メテ挑戦フ事數刻武田カ兵利ヲ失テ離散ス
伊忠勝ニ乗テ是ヲ追ヒ撃テ于時小山田備中守五
百余騎ヲ卒テ後ヨリ廻テ伊忠ヲ圍ム伊忠擬議セ
ス是ト戦フト云ハ氏敵ノ多勢圍ニ攻ム事太急也

伊忠勇ヲ奮ヒ術ヲ尽テ圍中ニシテ遂ニ戦死ス于
時三十九歳從兵共ニ戦死ス人皆其勇ヲ美稱ス長
篠ノ戦今朝卯ノ刻ニ始テ其夕ヘ未ノ刻ニ終ル

大神君及ヒ信長兩将ノ兵士等首ヲ得ル者凡一万余

級其中武田カ精兵山縣三郎兵衛尉馬場美濃守

横田備中守内藤修理亮土屋右衛門尉横田十郎兵衛

尉真田源太左衛門尉第真田兵部少輔并利藏原

隼人三安中左近大夫望月甚八郎城伊菴小幡又兵

衛尉奥津十郎兵衛尉等也奥津十郎兵衛尉ハ

大神君ノ兵高カ子左衛門尉正長是ヲ撃テ多田法

路守カ子多田三郎ハ大神君ノ陣ニ擒ニス多田

其隙ヲ伺テ照レ去ント欲ス是ヲ追撃テ遂ニ殺

ス織田信忠長篠ノ城ニ入テ城主奥平九郎信昌ヲ

招テ籠城ノ拒弁ヲ感称シ其臣數輩ニ戦功ヲ褒美

又信長西尾小左衛門尉ヲシテ信昌及ヒ其一族七人家

臣五人ヲ召テ各厚平功ヲ美シ玉ヒ長篠田嶺吉良田

原遠州ノ内刑部吉比新左山利木高辺等ノ食邑ヲ

信昌ニ賜リ又御腰物^{大般若}ヲ賜ル信長大神君ノ

長光

臣酒井左衛門尉忠次ヲ招テ武島巢ノ戦功ヲ賞テ
薙カシテ換リ有ル時此薙カシ忠次 大神君ノ献ス

今度長篠軍ニ討捕ル処ノ武田カ兵士ノ首地ヲ堀テ
是ヲ埋メ其上ニ塚ヲ築テ信玄塚ト号ス
今年ニ至テ信玄
卒去リ密ルニ依テ

斯ク
名ク

廿五日信長 大神君ニ面シテ曰ク長篠ノ戦ニ大ニ勝カシテ
武田カ仇牙ノ臣等悉ク死ス此弊ニ棄テ甲州及ヒ
信州ニ攻入ルニ於テハ武田カ一族ヲ悉ク追討テ甲信兩
国ヲ得ン支掌チテ指スカ如シ然リト云ヘ氏吾兵苦戦シテ

疲労ス暫ク人馬ノ勞ヲ休メ其戦功ヲ賞テ後我レ軍ヲ
濃州岩村ニ出シ秋山伯耆守ヲ誅伐シテ甲信ニ攻入ル
ヘシ 大神君ハ遠ニ兩國ヨリ兵ヲ發テ甲信ニ進發有
ヘキノ旨ヲ議テ信長兵ヲ収テ岐阜ニ歸ル

六月小

二日 大神君軍ヲ駿州由井蔵沢ニ出シ玉ヒ遠州ニ
候ニ御進發アリ毘沙門堂鳥羽山和田島蜷原ニ若クテ
構ヘ二候ニ備テ二候ノ城ヲ攻テ城兵出張シテ小川ヲ
隔テ戦ヲ挑ム朝比奈彌兵衛尉先鋒ニ進テ御味方

魁兵松平彦九郎ヲ討捕ル内藤彌次右衛門尉彦九郎
ト縁者タルニ因テ進テ朝比奈弥兵衛尉ヲ射倒シ其仇ヲ
執ス弥兵衛尉カ弟朝比奈弥蔵兄ノ首ヲ内藤ニ捕セ
シト進ム内藤ニ矢ヲ放テ弥蔵ヲ射殺ス城兵内藤ヲ
討ント競ヒ奔ス内藤退リ依之朝比奈兄弟カ首ヲ
得ス敵郭外ニ火ヲ放テ城中ニ敗シ入ル者ニ此ヲ蒙
ルノ城兵一人ヲ助テ城ニ引入ント欲スル者アリ櫻井
庄之助勝次是ヲ城門ニ追ヒ詰遂ニ敵ヲ討テ首級
ヲ得タリ勝次カ指物 赤根 城門ニ掛リ留ルヲ知ラス退ク

勝次カ奴僕 異名ヲ吟 是ヲ勝次ニ告ル再ヒ馳セ帰テ是
ヲ取ル 大神君鳥羽山ニ御陣坐有テ勝次カ武勇
ノ働ヲ見玉フ勝次則軒手捕ル処ノ首ヲ持チ鳥羽
山ニ来テ 大神君ノ台覽ニ入ル其功ヲ賞セラシ遠州
神間村敷地村高木村ヲ勝次ニ賜ル翌朝ニ僕ノ城
主依田右衛門依信蕃昨日内藤弥次右衛門尉カ射
ル処ノ矢ヲ以テ 大神君ノ巨石川日向守家成カ陣
ニ送ル其矢ニ札ヲ付ケテ大ニ是ヲ美称ス 大神君内
藤弥次右衛門尉カヲ勢昨日ノ軍功ヲ褒セラシ

實上錄... 卷之八... 八

實上錄... 卷之八... 八

弁ヲ潛ニ小山ノ城ニ退リ

大神君命有テ白誣訪原ノ城ハ高天神ノ通路ニシテ
田中ト大井川ヲ隔ル夏數里常ニ田中ノ兵ト屠戰
ト止ム時有ヘカラス依之此城ノ守リヲ諸將ニ問ヒテ
答ル者ナシ千時松平九郎將監忠次進テ其ニ此城
ヲ守ルヘキ旨ヲ達ス。大神君大ニ御感悅有テ忠次
ニ御諱ノ字ヲ賜テ康親ト号ラ九郎將監ヲ改テ
周防守ニナサシメ王ト誣訪原ノ城名ヲ轉シテ牧野
ノ城ト号シ玉フ以謂ル周ノ武王殷ノ紂ヲ牧野ニ敗ル周ハ康親
即千周ノ世ノ名也名全ク相ヒヨロシ

カ武勇カシ喜ヒ玉フ依之倍秩トシテ遠州樽木洞尻

七百貫ノ地ヲ周防守康親ニ賜ル是年ヨリ天正十年三月

是ノ城ニ在リ亦牧野右馬允康成命ヲ蒙テ康親ト共ニ牧

野ノ城ヲ警衛ス。大神君恩世部將等一人援兵ト

シテ交々牧野ノ城ニ来リ加テ康親ト共ニ城ヲ守ル

此月酒井左衛門尉忠次及ヒ奥平九郎信昌。大神君ノ御使

トシテ岐阜ニ至ル信長二人ノ勇敢ヲ美稱シ自今以後九郎

カ名ヲ呼テ武者之助ト云ヘシ千時一文暑者衣ヲ以テ信昌ニ授ク

大神君誣訪原及ヒ光明ノ兩城ヲ陷レ玉ヒテ後進テ小山

ノ城ヲ攻討シト諸將ヲ召テ是ヲ議シ玉フ于時酒井九衛
門尉忠次言テ曰備ヲ設テ長陣セハ士卒疲ルヘシ願ク
軍ヲ収テ暫ク其勞ヲ休メ玉ヘト諫メ奉ル又松平周防
守康親進テ曰小山ノ城ヲ攻ラレニハ是善キ謀ナルヘシ其
故先日長篠ノ軍ニ武田カ股肱ノ臣等戦死ス勝頼
獨武シト云フ凡勇兵ナクシテ何ヲ以テ小山ノ城ヲ救ニヤ
大神君是ヲ許シ玉ヒテ則兵ヲ發テ小山ノ城ヲ圍ニシメ玉フ
石川伯耆守數正松平周防守康親先隊トシテ攻討ツ松平
善四郎康安先鋒ニ奮戦フ本多平八郎忠勝士卒ヲ指

揮シテ戦ハシム忠勝カ從卒中村与惣内山忠三郎小野田与
一郎槍ヲ合セ日置三藏ヲ以テ槍股ノ敵ヲ射ル小泉弥
八郎松下七兵衛尉土屋甚助等戦死ス於是松平又八郎家
忠後ニ主殿
助ト号ス先鋒ニ進ニ戦テ首級ヲ得タリ

九月

十五日武田勝頼二萬余騎ノ兵ヲ卒テ小山ノ城後援トシテ
大井川ノ辺ニ屯ス

十七日勝頼陣ヲ大井川ノ辺ニ張ル由其告アリ 大神君是
ヲ聞玉ヒテ前ニ堅城アリ後ニ大敵アリ兵ヲ収テ退キ去シ

是軍ノ謀ナリト諸卒ニ命テ小山ノ城ノ圍ヲ解カシメ山ニ
傍テ列リ成テ退キ玉フ柳原康政大須賀康高ヲ先驅ト
シテ諸將段ニ備テ設テ敵ト大井川ヲ隔テ時々矢軍ニ
テ退ク高力次郎正長後ニ正統
守ト号ス日下部五郎八返シ合セ
敵ト戦テ首級ヲ得タリ 大神君ト信康先後ヲ譲リ玉フ信
康遂ニ殿後シ玉フ 大神君誦訪原ノ城ニ入り玉フ
十八日勝頼兵ヲ卒テ小山ノ城ニ入ル 大神君進テ陣ヲ馬伏
塚ニ張り玉フ勝頼軍ヲ引テ甲州ニ帰ル依之 大神君濱
松ニ御凱旋アリ濃州遠山ノ城ハ勝頼秋山伯耆守及ヒ

座光寺ヲ首將トシテ二千余騎ヲシテ是ヲ守ラシム織田城
之助信忠兵ヲ登テ攻討ツ城兵堅ク守テ是ヲ拒ク勝頼
後援トシテ伊奈ニ至テ出張スルト云ハ正長篠ノ軍ニ仇牙
ノ部将等多ク戦死シ殘兵ハ皆長篠ノ戦ニ利ヲ失ヒ織
田カ武威ニ恐懼シテ進ム事ヲ得ズ數日ヲ経テ間ニ遠山
ノ城中既ニ糧尽キ困窮ス依之城兵力尽テ遂ニ信忠降
テ遠山ノ城ヲ避ケ渡ス信忠遠山ノ城ヲ得テ城將秋山
座光寺ヲ擣シテ岐阜ニ遣ス信長秋山ニ憤深ニ依
テ彼ヲ磔ニス奥平九八郎信昌カ妻曾トシテ甲州

ニ在リシヲ勝頼是ヲ磔ニス其仇ヲ報セシカ為ナ且ツ
秋山カ妻ハ信長伯母タリ岩村ノ某死テ後嗣子ナ
キニ依テ信長末子御房丸ヲ以テ岩村カ養子トシテ
其家ヲ継シム依之御房丸遠山ノ城ニアリ岩村カ後
室秋山伯耆守ト嫁テ御房丸ヲシテ甲州ニ遣テ信
長ノ質トス故ニ信長是ヲ怒テ秋山カ妻ヲ殺ス遠山
ノ城糧尽キ城兵飢ニ及ノ時為方ナク財宝ヲ以テ三
州荊屋ノ城ニ賣テ糧ノ資用トス水野下野守信元
是ヲ買テ其價ヲ送ル依久間右衛門尉信盛ハ信元ト

不快也依之依久間水野ヲ信長ニ讒シテ白遠山ノ城糧
尽キ城兵困窮スルノ時水野信元志ヲ通シ荊屋城
ヨリ竊ニ糧ヲ遠山ノ城中ニ送テ城中ノ兵ヲ救ノ由シ
訴フ信長大ニ怒テ使ヲ荊屋ノ城ニ遣シ信元カ野心
ノ實否ヲ知ス信元驚テ其誤ナキヲ述テ信長疑
心ヲ散セシカ為ニ信元カ臣一人ヲシテ信長ノ使ニ副
ヘテ遣ハシム彼等途中ニシテ酒宴沉醉シテ口論
ニ及ヒ兩使共ニ戦ヒ死ス依之信長弥水野カ逆意ヲ
定ル此日信長入洛シテ權大納言ニ任ス中納言右近衛大

將ヲ兼テ信忠秋田城之ヲ任ス

十二月大

廿三日二侯ノ城主依田右衛門佐信蕃城ヲ堅ク守ルト云ハ
氏後援ノ兵ナキニ依テ大久保忠世ヲ憑心テ和シ乞ヒ遂ニ
侯ノ城ヲ去テ甲州ニ帰ル干時信蕃カ弟依田善九郎
同源八郎ヲ質ニ献ス且ツ大神君ヨリ質シ信蕃ヲ
去フ彼質ラニ侯川ニシテ互ニ返サシメ信蕃高天神ニ
退リ大神君大久保七郎右衛門尉忠世安部四郎五郎
忠政ニ命テ二侯ノ城ヲ守ラシメ玉フ今年天正三年ヨリ同九年
ニ至テ二侯ノ城ヲ守ル

廿七日信長大神君ト議テ水野信元ヲ誅セント欲ス
大神君久松佐渡守俊勝ヲシテ信元ヲ迎ヘシメ至フ俊
勝其所謂ヲ知ラス信元ヲ迎フ信元岡崎ニ至ル
大神君平岩七之郎親吉ニ命テ岡崎ノ城下相應寺
ニシテ遂ニ信元ヲ殺サシメ至フ俊勝是恨テ
大神君ト儀絶ス信長水野信元カ旧領ヲ以テ讒臣
佐久間右衛門尉信盛ニ賜ル

天正四年丙子

三月大

廿日例ノ如ク御鏡ノ賀儀アリ諸士濱松ノ城ニ冬賀

ス又今百連歌ノ御會アリ去年天正三年ヨリ今百ノ連歌ノ會ヲ始テ催ケル是ヨリ例トシテ毎年此

式アリ

二月小

七日上秋讓信輝帛入道本氏長尾上秋家ヲ継ク故ニ上秋ト称ス書ヲ酒井左衛門

尉忠次ニ投テ大神君ト讓信共ニ勝頼ヲ夾テ攻ニ事ヲ告ル

大神君遠州横濱賀ニ城ヲ築カシメ大須賀五郎左エ

門尉康高篁助太夫ヲシテ是ヲ守ラシメ玉フ

大神君師ヲ大井川ニ築シ樽山ノ城ヲ拔キ玉ヒ勝坂ノ

城ヲ攻討シメ玉フ天野宮内左衛門尉塩見坂ノ險ニ

據テ是ヲ拒ク御味方ノ先鋒聊利ヲ失テ離散ス

大原大助大濱平左衛門尉等命ヲ殞ス水野惣兵衛

尉忠重苦戰シテ敵ヲ追返ス大久保忠世ニ命テ石

嶺ニ登ラシメ是ヲ攻サシム天野是ヲ守ルニ堪ヘス退テ

鹿島ノ城ニ壁テ此地隘阻ニシテ士卒ヲ勞スルニ忌

ヒズ兵ヲ収テ濱松ニ還リ玉フ

三月大

十七日大神君松平甚太郎家忠松平周防守康親
連書ヲ賜リ米地ヲ宛行ル

一今度氏志就政府入書收地書ヲ外相海軍
省駿州山東宛リ申付宛行ル有國政事
候モ其方ヨリ申付ル事

一山東并一編モ山西宛リ申付ル事

一討氏志就政府見解不レ合時略

一在出申レ条企匠心シ由誰中坊孔明憲臣可

如下部

一巨融地力カ節カ有テ其方ノ事
上同心子ノ事

右ノ条ノ令領事平日ノ心付競中人権
有レ一切有テ許事永無違カ有テ也

天正四丙子年

三月二十七日

家康

松平甚太郎宛

同 岡田守成

六月小

六日酒井雅樂頭正親卒ス正親病痾危急ナルノ
時大神君彼カ疾病ヲ訪ヒ玉テ正親カ宅ニ渡御
アリ御手ツカラテ御藥ヲ賜テ思フ事アルニ於テ人聊
モ憚ル処ナリ遺言スヘキノ旨鈞命ヲ蒙ル正親其
御懇情ノ厚キ事ヲ謝テ正親カ嫡子ト四郎後河内守重忠
ト号ス是雅樂ス次男ト七郎後備後守忠利ト号ス
御前ニ呼出シテ正親言テ曰我思フ友他ナシ此子君
ノ御哀憐ヲウケテ忠義ヲ尽シ其器ニ依テ奉仕セシ
ヲ願フ大神君是ヲ諾シ玉フ平岩七之助親吉ヲシテ

正親カ病中ニ付テ置カシメ玉ヒテ還御アリ其後近臣
等ヲ以テ屢彼ノ病ヲ問セ玉フ

八月大

織田信忠從四位上ニ叙ス

此秋三郎信康三州大濱ノ郷主長田平右衛門尉重元カ
男傳八郎直勝ヲ名テ始テ御家久ニ屬ス傳八郎後長田ヲ永升ニ改メ
右近大夫ト号ス

十一月小

織田信長入洛シ二条ノ妙覺寺ニ居ル

十三日信長三位叙ス同廿日内大臣ニ任シ陣ノ座宣
下同廿三日参内此年武田勝頼遠州金谷峯ノ城ニ出
張ス大神君進テ不夜ノ中山ニ陣シ至テ其夜勝頼峯ノ
城ヲ退リ

天正五年丁丑

正月大

一日遠州濱松ノ城正旦ノ賀儀例ノ如シ此春織田信
忠入洛シ正四位下ニ叙ス

七月小

廿日松平与三郎忠吉忠正カ家督ヲ継ク忠正カ室ハ大神君
御同胞ノ御妹ナリ
大神君ノ命ニ依テ忠正死テ後弟ノ与三郎忠吉ニ嫁
セシメ至テ忠吉卒テ後此室ヲ以テ
又保科彈正忠正ノ妻セシメ至テ此秋大神君遠州山梨
ニ御進發アリ穴山梅雪是ヲ拒クト云ハ斥御味方軍
士等競ヒ討ツ間梅雪遂ニ利ヲ失テ退リ

十月小

勝頼兵ヲ遠州ニ出ス
廿日勝頼小山ノ城ヨリ大井川辺ニ出張シテ兵ヲ引テ

帰ル

同日大神君馬伏塚ニ陣シ玉ヲ信康濱松ニ来リ玉ヲ

廿日三郎信康勝頼カ兵ヲ引テ帰ルヲ聞玉ヒテ岡

寄ニ歸リ玉ヲ

廿二日大神君馬伏塚ヨリ濱松ノ城ニ還リ玉ヲ此ヨリ

濱松ノ城經始

此月織田信忠入洛シ從三位ニ叙シ左中將ニ任ス

廿四日大神君諸將ヲ濱松ノ城ニ召テ美膳ヲ賜ル松

平主殿助家忠城ニ登テ列坐ス此月織田信長右

大臣ニ任シ從二位ニ叙ス大将元ノ如シ

此月植村出羽守家政卒去ス

十二月大

三日織田信長三州吉良ニ狩ス 大神君三州ノ士ニ命

テ是ヲ饗食シ玉ヲ

十日大神君從四位下ニ叙シ玉ヲ

廿九日大神君左近衛權少將ニ任シ玉ヲ

家忠日記追補卷之五終

家忠日記追加卷之六 自天正六年至同九年

平井文庫

天正六年戊寅

正月大

十六日大神君三州岡寄ノ城ニ渡御アリ松平主殿助
家忠岡崎ニ参候シテ大神君ニ謁ス
此月織田信長正二位ニ叙ス

二月小

四日遠三兩國大雪降積テ其深キ夏四尺餘

十八日遠州濱松ノ城始經

三月大

一日濱松ノ城ノ經營ヲ止ラレ近日駿州田中ノ城ニ御兵向テ催ル

七日 大神君掛川ニ陣シ玉ヲ

八日 大神君掛川ヨリ大井川辺ニ御陣ヲ移ル

九日 大神君兵ヲ田中ノ城ニ送シ玉ト城ヲ圍テ攻撃ス

玉ヲ前夜雞鳴ノ時ニ及テ酒井五九郎内藤甚五九衛門

尉熊谷小一郎小栗又一郎城壁ニ忍ビ寄テ城中ヲ伺

ヒ先登セント款ス城中ヨリ伏兵ヲ外郭ニ出シ置テ守ラ

シム此伏兵一同ニ起テ是ヲ拒クノ間酒井内藤熊谷小

栗等挑戦テ敵ヲ城中ニ追ヒ入ル此由 大神君ノ上

聞ニ達ス命有テ曰軍令ヲ背テ拔掛スルノ条曲事スル

ノ由各四人御島氣ヲ蒙ル天正九年高天神ノ城陷ル後四人トモニ赦免セラル 御味方

ノ軍勢田中ノ城外郭ヲ破テ競ヒ攻ム武田カ兵奮戦

テ是ヲ拒ク松平主殿助家忠カ從士依野次助行家

彦十郎力戦シテ首級ヲ得タリ戸田三郎右衛門尉忠

次カ軍士黒田次郎右衛門尉安政半兵衛尉岸上勘三

郎福井源藏先登シテ能ク戦フ

十日 大神君牧野ノ城ニ御陣座

十三日 大神君ノ兵小山ノ城ヲ攻ム

同日 讓信上校輝卒去ス四十一歳景勝紀平ト景席三郎國

ヲ爭フ相戦テ景勝景虎ヲ殺テ遂ニ立ツ讓信子ナキ故ニ北条氏康

カ男景席ヲ子トス又甥ノ景勝ヲ子トス故ニ子國ヲ爭フ

十八日 牧野ノ城經營成ル依之 大神君濱松ニ還リ至フ

四月大

十七日 三郎信康三州岡崎ノ城ヨリ濱松ニ来リ城ニ登

大神君ニ謁見アリ

十八日 三郎信康濱松ヲ出岡崎ノ城ニ歸リ至フ

七月小

三日 大神君ノ台命ヲ奉テ松平主殿助家忠遠州横須

賀ノ城取出ノ要害ヲ築ク殘暑甚ク苦身タル由

大神君ヨリ御使ヲ下サレ是ヲ勞ラヒ至テ瓜ヲ家忠ニ賜ル

八月小

七日 牧野ノ城番西郷孫九郎家員ニ代テ松平甚太郎家忠勒之

八日 大須賀五郎左衛門尉康高天神ノ城下国安河ノ邊

三軍ヲ合テ武田カ兵ト戦ヒシム武田カ軍勢利ヲ失テ

敗北ス康高カ從卒多ク首級ヲ得タリ殊ニ坂部三十郎
廣勝戦功ヲ尽ス卒多平八郎忠勝石川長門守康通
久野三郎左衛門尉宗能是ヲ記テ濱松ニ獻ス

廿日大神君及ヒ三郎信康遠州小山城ニ御進發アリ

廿日大神君兵ヲ駿州遠目ニ發テ御歸陣ノ時望宗ノ城
ヨリ敵是ヲ遮ル石川數正敵ヲ追拂テ數十人ヲ撃テ捕ル
同日御味方軍勢駿州田中ノ辺ニ芥田ス命ヲ奉テ松
平主殿助家忠士卒ヲ分テ大谷表へ指シ遣ス平岩
之即親吉カ輕卒芥田ニ赴キ敵ト戦テ疵ヲ被ル家忠

從卒ヲシテ是ヲ井呂ニテ送ラシム

廿六日家忠カ軍士芥田ノ為メ田中表ニ發ス

廿八日甚雨烈風ス黎明牧野ノ城辺ニ乍候トシテ敵七八騎
來リ伺ヒ連ニ退ノ間御味方ノ城兵出テ戦フニ及ハス

九月六

四日大神君駿州ヨリ兵ヲ牧野ノ城ニ収メ至テ牧野ノ城番
仁連木衆ニ代テ主殿助家忠是ヲ勒ム

六日大神君牧野ノ城ヨリ濱松ニ歸リ至テ三州ノ諸將ハ
牧野ノ城ニ残り留テ城壁ヲ修補ス又牧野ノ城兵等

八命ニ依テ今城ニ軍ヲ登ス

十二日 大神君岡崎へ渡御アリ

十四日 大神君濱松ニ還リ玉フ

十九日 武田勝頼兵ヲ卒テ遠州ニ出張スル由其聞ヘテ

廿七日 三郎信康武田カ兵ヲ出ス夏ヲ聞玉テ濱松ニ来リ玉フ

廿八日 申刻大地震此日 武田カ兵山ヲ越ヘ来ル由牧

野ノ城ヨリ濱松ニ注進ス

晦日 敵大井川ヲ越ルノ由牧野ノ城ヨリ濱松ニ注進ス依

之三州ノ諸將命ヲ奉テ見付ノ駅ニ陣ス高天神ノ城

ヨリ夜半ニ及テ敵ノ兵一人竊ニ城ヲ出テ御味方ノ圍ヲ
脱シ去ニト敵ス渥美源五郎勝吉是ヲ討捕ル其首ニ勝
頼カ在判ノ陰書一通ヲ掛ル勝吉是ヲ取テ 大神君ニ獻ス

十一月

二日 武田勝頼小山相良也ニ陣ヲ移ス由注進有ニ依テ

大神君カニ信康馬伏塚ニ御進登アリ諸卒ハ皆紫魚ニ此

三日 大神君信康御又子師ヲ帥テ横須賀ノ城近也松

社山ニ陣シ玉フ其兵八千余騎諸卒ハ各山下ニ陣ヲ張ル武

田勝頼進テ横須賀ノ城ヲ攻ニト欲シ兵ヲ卒テ横須賀

ニ赴クト云ハ氏此道 大神君ノ陣シ玉フ山下ヲ経ルノ間
大神君ノ武威ニ恐テ猶豫ス小笠原与八郎及ヒ山縣カ
陣代小菅五郎兵衛尉ニ手ノ軍勢海路ヲ往テ横瀬賀
ノ城邊ニ至ル横瀬賀ノ城ハ大瀬賀五郎左衛門尉康高
城主トシテ寛助大夫等相加テ是ヲ守ル寛進ニ城中
ヨリ出張シ輕兵ヲ指揮シテ戰ハシム小笠原与八郎小菅五
郎兵衛尉輕卒ヲ進メテ矢軍ス勝頼陣ヲ分ツ度十
七列ニシテ 大神君ノ御陣ト入江ヲ隔テ陣ス時武
田カ臣強テ諫ルニ因テ勝頼戰ハシテ兵ヲ引テ高天

神ニ退ク大瀬賀康高カ軍士渥美源五郎鷲山傳八郎
浅井九左衛門尉柘植又十郎等勝頼カ後軍ヲ追討
テ渥美柘植二人首級ヲ得タリ 大神君其軍功ヲ
褒ヤレ渥美源五郎ニ胴服ヲ賜ル
四日敵ノ所候横瀬賀ノ城邊ニ來ル窺フ
七日水野藤次郎ヨリ荒木根津守村重信長ヲ殺シテ進ス
十二日武田勝頼高天神ノ城ヲ引退ク
十四日松平主殿助家忠進テ掛川ノ益田ニ兵ヲ屯スル
処ニ武田カ先隊大井川ヲ涉棄ルノ由其告アリ

十七日敵兵三隊島田ニ至テ出張ス
十九日敵青塚ノ陣ヲ引テ田中ノ城ニ退ク
晦日武田勝頼去ル廿五日兵ヲ収テ甲州ニ帰ル由註進
有ノ由註進有ニ因テ大神君瀨松ノ城ニ御凱旋アリ
此日信康瀨松ヲ出テ岡寄ノ城ニ帰り玉フ

天正七年己卯

正月大

一日諸士瀨松ノ城ニ登テ大神君謁ニ新正ノ賀儀ヲ献ス

二日夜ニ入瀨松ノ城ニシテ例ノ如ク御詣初アリ松平主殿
助家忠城ニ登テ著坐ス

廿日大神君三州吉良ニ狩シ玉フ

廿九日大神君三州吉田ヨリ瀨松ニ還リ玉フ

二月小

九日大神君命有テ来ル十八日ヨリ再ニ瀨松ノ城經始
アリ家忠是ヲ監スヘキノ御旨ヲ蒙ル

廿日本多作左エ門尉重次カ攝ヘ普請令ヨリ始ル家忠
是ヲ監ス

三月大

六日牧野ノ城ノ警言衛家忠ニ命セラル家入ヲ分ケ濱
松ニ殘ニ留テ普請ノ夏ヲ終セシメ家忠濱松ヲ發シテ
掛川ニ著ク

七日主殿助家忠牧野ノ城ニ至リ西郷孫九郎家員ニ
代テ牧野ノ城ヲ守ル

廿五日勝頼因安ニ陣ス夜ニ入大神君信康ト馬伏塚
ニ陣ニテ是ニ對シ玉ヲ

廿六日牧野ノ城番戸田新六郎ニ代テ家忠深溝ノ城歸

廿七日勝頼因安ヲ去ル

廿九日勝頼大井川ヲ涉テ退ク故ニ大神君濱松ニ御凱旋

四月大

七日遠州濱松ノ城ニ於テ台徳院殿誕生諸士參賀ス
于時大神君命テ土井甚三郎七歳後ニ大炊ヲシテ台徳
院殿ニ附ケシメ玉フ是ヨリ甚三郎日夜台心ラス勤仕シ
テ遂ニ輔佐ノ臣トナル

廿三日勝頼駿州江尻ニ至テ出張スルニ依テ来ル
廿六日家忠兵ヲ卒テ濱松ニ馳参ケルヘキ旨大神君ノ

命ヲ奉テ石川伯耆守教正家忠ニ告ル

廿五日主殿助家忠士卒ヲ推テ濱松ニ去テ著ス武田

カ軍勢高天神国安ニ陣スルノ由其聞ヘアリ

廿廿夜ニ入大神君馬伏塚ニ御祭向アリ三郎信康モ此曉馬

伏塚ニ至リ至テ三州ノ軍勢等各見付、軼ニ陣ス

廿七日三州ノ軍勢進テ袋井ニ至ル武田カ兵、国安ヲ引退

クノ由其告アリ

廿九日馬伏塚ノ守將 大神君ニ属ス今日武田カ兵大井川ヲ

涉テ退クノ由注進有ニ因テ 大神君濱松ノ城ニ歸リ至テ

此月北条氏政カ軍勢梶原ノ某海賊ヲ浮島カ原ノ磯ニ

進マテ武田カ兵小濱間宮等ト船軍ハ勝頼ハ浮島

カ原ニ陣テ是ヲ見ル武田カ軍勢始ハ利ヲ失ト云ヘトモ

向丹伊賀守其子兵庫助カラ尽テ奮戦フ、間武

田カ兵遂ニ利ヲ得タリ

八月大

三日 大神君三州岡崎ノ城ニ渡御アリ故有テ三郎信

康ト卿父子ノ間御不快タルニ因テ也信康岡崎ノ城

ヲ避ケ同国大濱ノ郷ニ閑居シ至テ

四日三郎

三誤十千

心遂二散

鄉二歸北

五日松平

謁三奉

連三西

奉于家

同日大

七日大

衛松平

助家忠

奉于是

九日大

遠州堀

十日大

則家忠

君羊参

カラサルノ由諸將ヲシテ各起請之ヲ書シメ玉フ

十二日大神君岡崎ノ城ヨリ濱松ノ城ニ還御奉多作

左衛門尉重次ヲシテ岡崎ノ城ヲ守ラシメ玉フ

廿九日信康ノ母公築山ノ御方ト号ス害ニ遇フ岡本平右衛

門尉是ヲ害ス築山ノ御方遠州濱松迄取富坂村ノ内御前谷ト云所アリ其処ニテ御生害シ玉フ御位牌濱松ニ西

来院ト云アリ其寺ニ有リ

九月小

二日牧野ノ城警衛ノ為メ家忠濱松ニ参候ス頃日

大神君聊御不例アリ相州小田原ノ城主北条氏政執カラ

関東ニ揚ルト云ヘ氏途ニ信長ノ威風ヲ聞テ請テ是ニ属シ

大神君ト約シ期ニ武田勝頼ヲ討ント相催ス

五日北条ヨリ朝比奈弥太郎ヲ使トシテ大神君ニ告

テ曰吾勝頼ヲ豆州ニ相支シ時ニ駿州ニ至テ勝頼カ

後ヲ籠衣ヒ玉ヘ大神君是ヲ諾シ玉フ

十三日大神君北条氏政ト御和睦有ニ因テ来ル十七日其

手合トシテ駿州表ニ御働坐可有ノ旨諸將ニ觸催サル

同日大須賀康高高天神ノ城下三峯山ニ伏兵ヲ設テ

城兵ヲ謀リ出シテ討ント欲ス敵ノ間諜是ヲ聞テ城

中ニ告ル依之城兵遮テ軍ヲ城外ニ登ス康高地利ニ陣シテ是ヲ待ラケ相戦テ大ニ利ヲ得ル從卒坂部三十郎廣勝槍殿ニシテ敵ノ魁兵中野郷左衛門尉ヲ撃テ捕ル其外康高カ軍士多ク首級ヲ得タリ敵遂ニ利ヲ失テ城ニ敗シ入ル

十五日三郎信康遠州二股ニ於テ生害シ王干時世二歳法名騰雲カ為メ掛川ノ馭ヲ弁ス
院隆岩長越遠州ノ住人天野山城守久錯山城守カ信康カ子村也カ有リ信康ノ女子二人赦免有テ恙ナシ一人ハ小笠原兵部太補秀政ニ嫁ス一人ハ本多美濃守忠政ニ嫁ス

十七日北条氏政カ手合トシテ御味方ノ軍勢駿州ニ入シカ為メ掛川ノ馭ヲ弁ス

十八日大神君駿州ニ入王ヲ諸卒ニ山ニ陣ス

十九日大神君松平甚太郎家忠牧野右馬允ニ命テ望宗ノ城ヲ討シメ王ヲ

同日大神君田中ノ赤池ニ陣坐

廿五日勝頼駿府ニ帰ル故ニ大神君兵ヲ収テ井呂ニ還リ王ヲ大須賀五郎左衛門尉康高松平周防守康親殿ニシテ敵ヲ拒ク御味方ノ軍兵馬筏ヲ組テ大井

川ヲ渡ス

晦日 大神君牧野ノ城ニ入玉フ

十月大

一日 大神君牧野ヨリ濱松ノ城ニ歸リ至フ

九日 大神君今川氏真ヲ濱松ノ城ニ饗食シ玉フ

十九日 大神君濱松ヲ御進出有テ掛川ノ驛ニ御陣坐

廿日 遠州河上ニシテ大須賀康高伏兵ヲ設テ敵ヲ

討テ首級ヲ得タリ

廿六日 牧野ノ城番ニ連木ノ兵ニ代テ今日家忠濱松ニ歸ル

十一月小

四日 松平主殿助家忠 大神君ノ命ヲ奉テ井呂カ崎也

ニ伏兵ヲ設ケ狼煙ヲ以テ約ヲ期シ不意ニ越テ敵ヲ討

ヘキノ由ニ復テ謀ヲ定ラルノ処ニ下卒等卒爾ニ近也

ノ野ニ火ヲ放テ煙ヲ揚ルノ間其約相違ス大神君此

ヲ怒リ至ヒテ放火スル者ヲ御亂明有ノ処ニ烏居彦

右衛門尉元忠カ輕卒也則彼者ヲ斬罪セラル

七日 松平主殿助家忠 大神君ノ釣命ヲ奉テ瀧坂表

ニ伏兵ヲ設ル敵軍ニ馳来ルノ間伏兵ヲ死テ急ニ攻

討ツ敵狼狽シテ敗走ス是ヲ追ヒカケ敵ノ兵五騎
ヲ討テ其首ヲ得タリ其外ハ荷駄二十匹追ヒ崩シ
テ是ヲ奪ヒ捕ル 大神君其功ヲ褒セラル

十一日 大神君濱松ヲ御出馬掛川ノ駛ニ著御諸卒
ハ近辺ノ邑里ニ屯ス

十三日 御味方ノ軍勢横須賀ニ陣ヲ移ス

十五日 大神君濱松ノ城ニ還リ王ヲ主殿助家忠城ニ登リ
大神君ニ謁ス

廿日夜ニ入 大神君本多百助ヲ上使トシテ主殿助家忠

ニ休暇ヲ賜ル其外諸將各暇ヲ賜テ明曉濱松ヲ入テ
皆居城ニ赴リ

廿四日 大神君ヨリ蒼鷹ヲ主殿助家忠ニ賜ル

同日 武田カ兵駿州田中ニ出張スルノ由濱松ニ註進アリ

廿五日 敵田中ニ出張スルノ間家忠兵ヲ卒テ濱松ニ馳

参ルヘキノ旨命アルノ由天野三郎兵衛尉康景岡崎
ノ城ヨリ深溝ノ城ニ告ル依之家忠深溝ヲ入テ廿日新
居ノ駛ニ到ル

廿六日 家忠濱松ニ参著シ城ニ登テ 大神君ニ謁ス

敵高天神ノ城ニ移ルノ由此日瀨松ニ註進アリ
廿七日家忠瀨松ヲ祭シ進テ見付ノ駈ニ陣ス敵国安
シ引退クノ由其告アリ依之家忠兵ヲ卒テ瀨松ニ帰ル

十二月大

二日家忠休暇ヲ賜テ深溝ノ城ニ帰

天正八年庚辰

正月小

一日新ニテ祝シ奉ニカ為諸士瀨松ノ城ニ参賀シ

大神君ニ謁ス

二日夜ニ入例ノ如ク瀨松ノ城ニシテ御詣初アリ松平主
殿助家忠城ニ登テ着坐ス

三日勝頼高天神ノ城後援トシテ甲斐又信濃ノ一揆ヲ
催シ軍ヲ出スノ告有ニ因テ織田信忠兵ヲ卒テ尾州清
洲ニ至ル

四日横須賀ノ城警言衛トシテ水野監物同姓惣兵衛
尉是ニ赴ク

五日 大神君從四位上ニ叙シ玉フ

廿四日 大神君三州西尾ニ將シ玉フ
廿七日 大神君岡崎ノ城ニ渡御アリ

二月大

十日 大神君駿州表ニ御進登由酒井忠次ヨリ家忠ニ告

三月小

十三日 来ル十六日 高天神取出ノ為メ家忠士卒ヲ携ヘ瀨松ニ
參陣スヘキノ旨 鈞命有ルノ由 酒井忠次吉田ノ城ヨリ 深溝ニ
告

十六日 家忠瀨松ノ城ニ參着シ城ニ登テ 大神君ニ謁ス

同日 大神君瀨松ヲ御出馬

同日 高天神ノ城兵天王カ馬場ニ出張ス大須賀康高
中村ノ若ヨリ兵ヲ合テ相戦フ康高カ從士久四三四郎
坂部三十郎氏家金次郎近藤武助菅沼兵藏鷲山
傳八郎進テ槍ヲ合セ奮戦フ其康高カ從士戦功
ノ者多シ本多平八郎忠勝カ軍士内山忠三郎日置小左
衛門尉先鋒ニ進テ槍ヲ合セ力戦ス忠勝カ軍勢カ競
と掛テ急ニ攻撃テ遂ニ的場曲輪ノ柵ヲ破ル
十八日 高天神ノ城ヲ攻玉ハシカ為ニ若ク大坂ニ築キ玉

フ命ヲ奉テ家忠大坂ニ登ス

廿日大坂ノ砦ヲ終ス

廿五日大坂ノ砦終築イニテ成ラス又命テ中村取出ノ

要害ヲ築カシメ玉フ

廿八日中村取出ノ要害成ル

廿九日大坂中村両城ノ間ニ取出ノ要害ヲ築カシメ玉フ

閏三月大

九日 大神君濱松ノ城ニ還リ入玉フ

廿四日武田勝頼師ヲ帥テ豆州表ニ出張ス

晦日未月五日 大神君駿州表ニ御働坐ノ由三州ノ諸將ニ
觸レ催サル

四月小

十六日家忠牧野ノ城警言衛ノ為メ今日濱松ニ参着ス

十八日牧野ノ城番西郷孫九郎家員ニ代テ家忠城ヲ守ル

廿七日三州ノ軍勢茅池田ノ駅ニ陣ス

五月大

一日 大神君掛川ノ駅ニ御陣座

二日 大神君ノ兵牧野ニ陣ス遠州ノ兵ハ丹呂ニ屯ス

三日御味方ノ諸勢田中ノ城ヲ攻ム此年依田石衛門佐田中ノ城ニ移リ居テ四ノヲ守ル

四日御味方ノ軍勢直目ニ至リ八幡山ニ陣ス

五日輕卒ヲシテ田中ノ城近辺ノ麥ヲ悉クヲ薙シメ

大神君兵ヲ収テ還リ上ラ石川伯耆守敷正殿以時ニ望

宗ノ城ヨリ朝比奈駿守カ軍勢等不意ニ出テ

大神君ノ後軍ヲ籠河撃シト欲ス石川伯耆守敷正酒

井河内守重忠松平日防守康親牧野右馬允康成平岩

七之助親吉内藤弥次衛門尉家長鈴木紀三郎小原等

石

返ニ合セテ力戦ス松平近大夫直乘横合ニ驅テ頻リ競ヒ

戦フ敵忽ニ敗北ス御方ノ軍勢利ニ乘テ是ヲ追討ッ

三浦兵部少輔向井伊時貞守長谷川左近大夫須藤左門

石原五郎作天野角治衛門尉櫻井兵庫助朝比奈市

兵衛尉同姓隼人正右部補三郎菴原傳内等ヲ始ル

余人ヲ討テ各其首ヲ没タリ其中ニ三浦兵部少輔ハ松平周

防守康親カ臣岡田信右衛門尉元次是ヲ討捕ル然ルニ

色ノ某大神君ノ御意ニ氣ヲ蒙テ周防守康親カ許ニ

執事居シテ此陣ニ在助行右衛門尉元次三浦兵部少輔

カ首ヲ一色ニ譲リ与ヘテ具戦功ヲ以テ一色大神君ノ
御赦免ヲ蒙リ更テ請フ。大神君元次カ軍功ヲ一色ニ
譲ル事ヲ御推察有テ著シ玉フ御鎧緋ノ片袖ヲ以テ
元次ニ賜フ。矢部孫三郎ハ安藤次右衛門尉三次是ヲ討
テ首ヲ得タリ。大神君具戦功ヲ褒セラレ永樂世貫
文ヲ三次ニ賜ル

十七日牧野ノ城番戸田新六郎三代テ家忠濱松帰ル

六月小

十日大神君横須賀ニ馬ヲ出シ玉フ家忠鎌田ニ陣ス

十一日高天神ニ對テ若シ鹿カ鼻ニ結ハシメ玉フ家忠進テ
鹿カ鼻ニ陣ス

十二日鹿カ鼻取出ノ要害ヲ築キク

十七日火ヲ高天神ノ外郭ニ放ツ

十八日輕卒ヲシテ高天神城外ノ稻ヲ刈シメ。大神君御凱
旋アリ

七月小

廿日大神君掛川ニ御進發アリ三州ノ軍勢ハ山口ニヒス
廿日大神君丹呂崎ニ陣シテ稻ヲ刈ラシメ玉フ

廿二日御味方ノ諸卒小山ニ進テ相戦ト敵ヲ少ク討取ル
家忠カ從士能ク戦テ歟ヲ被ル者二人

廿三日酒井左衛門尉忠次先日ヨリ田中ノ城ヲ圍ム石川伯耆
守數正忠次代テ田中ノ城也ニ陣ス依之忠次吉田ノ城ニ歸

廿四日小山表苅田ノ拒キトシテ指置ク本多平八郎忠
勝カ從卒三騎敵ト戦テ死ス

廿五日大神君ノ命ヲ奉テ家忠小山表ニ兵ヲ發ス

廿六日大神君軍ヲ掛川ニ収メ至テ諸將モ又掛川ノ駅ニ集ル

廿七日大神君瀨松ノ城ニ還リ入玉フ

八月六

北条氏政師ヲ帥テ黄瀬川ニ出張シ武田勝頼ト對陣ス
兼テヨリ氏政大神君ト約テ勝頼カ陣ヲ前後ヨリ挿テ攻
撃シト謀ル

十八日北条氏政カ使小笠原 瀨松ニ来テ武田勝頼
ト對陣ノ事ヲ 大神君ニ告ル

廿七日松平次郎右衛門尉重吉三州野見ニ於テ卒去ス八十三

九月小

十八日来ル廿二日家忠兵ヲ卒テ瀨松ニ參陣スヘキノ旨

大神君ノ釣命ヲ蒙ル

廿日大神君御出馬延引由濱松ヨリ三州ノ諸將ニ謁シ
知ラシメ玉フ

廿三日大神君命有テ永野惣兵衛尉忠重ニ三州荻屋ノ

城ヲ賜ル是ヨリ先キ忠重ノ兄下野守信元荻屋ノ城主ナリ天正三年信長ノ為ニ生害ス

高カキ左衛門尉清長後三河内守ト号スニ遠州馬伏塚ノ城及ヒ

録田ノ郷ヲ賜

十月大

十二日大神君師ヲ帥テ濱松ノ城ヲ御進發アリ

十九日主殿助家忠及ヒ三州ノ諸將大坂須賀ニ陣ス

廿日大神君ノ命ニ依テ諸將人夫ヲ山ニ登セテ柵ホラ
伐ラシム

廿二日御味方ノ勢進テ高天神ノ城限ニ陣ス 大神君命

テ鹿カ鼻中村小笠等ノ取出ニ各軍勢ヲシテ守ラシメ

玉ヒ高天神ノ城四方ニ壘ヲ深シテ柵ヲ結ハシメ郭外ニ

間ニ軍士一人ヲ配テ堅ク城ヲ圍ニシメ玉フ

廿四日高天神城外柵ヲ結シメ普請成ル

廿八日大神君高天神ヨリ陣ヲ馬伏塚ニ移シ玉フ

十一月小

十日 大神君命テ橋カ谷ノ要害ヲ修セシメ玉フ

同日 大神君高天神ノ城多勢ヲシテ堅ク是ヲ圍ヒシメ玉フノ由信長ニ告ケ玉ヒシ爲メ松平主殿助家忠ヲ御使トシテ安土ノ城ニ赴カシメ玉フ家忠命ヲ奉テ濱松ヲ祭テ安土ニ至リ信長ニ謁テ御使ノ御旨ヲ述テ濱松ニ歸ル依之信長ヨリ高天神ヲ攻ルノ援兵来ル

十二月大

五日夜ニ入高天神ノ城外石川伯耆守數百カ陣營失

火ス然リト云ヘ凡陣中ノ制法堅キニ依テ聊モ物忽ナラ
廿日 信長ヨリ猪子兵助福富平左衛門尉長石川藤
五郎西尾小左衛門尉四人使トシテ高天神ニ来ル
廿一日 大神君信長ノ四使ト共ニ高天神ノ城ヲ巡見シ玉フ
廿二日 大神君信長ノ四使ヲ伴テ濱松ニ還リ玉フテ是
ヲ饗食シテ後四使ヲ歸ラシメ玉フ

天正九年辛巳

正月小

一日諸士濱松ニ参候シテ城ニ登テ 大神君ニ謁シ新正
ノ賀儀ヲ献ス

二日夜ニ濱松ノ城ニ於テ例ノ如ク御誼初有諸士参賀

三月小

廿日去年十月ヨリ此春ニ至テ遠ニ兩國ノ多勢高
天神ノ城ヲ圍ム依之城兵頻リニ後援ヲ勝頼ニ請フ
ト云ハレ勝頼果サス上州ニ軍ヲ出ス高天神ノ城兵
等是ヲ聞テ氣屈シカ尽テ必死ニ迫ル故ニ今夜戌
ノ刻ニ及テ城門ヲ開テ一同ニ進テ出テ寄手ノ圍ヲ

破テ脱レ去ニト欲シテ石川長門守康通カ守リ圍ム
所ノ龍カ谷ニ切テ出ル寄手ノ軍勢カ伍ヲ乱サス陣ヲ
堅メ是ヲ攻討ツ城兵圍ヲ破ル直ヲ得ス寄手ノ多
勢奮奮撃手ツノ間城兵悉ク龍カ石ニ敗シ入テ洛
重テ死亡スル者數百人殘兵猶圍ヲ破テ遁レ去ニ
ト欲ス本多平八郎忠勝鳥居彦右衛門尉元忠
是ヲ攻討テ時金四輪ニ追ヒ入ル水野惣兵衛尉
忠重其子水野藤十郎勝成父子ホツテカ子由
輪ヨリ二ノ丸ニ進テ攻入ル水野カ從卒清水次右

衛門尉山本市作先登シテ死ス的場曲輪ノ敵影
ク拒テ寄テ聊猶豫ス時ニ戸田孫六郎康長二十歳
後ニ丹波守此曲輪ヲ攻メ事ヲ請フ大神君是ヲ許シ玉
トヨラス
フノ間康長進テ攻討テ城中ニ火ヲ放ツ戸田三郎右エ
門尉忠次同ク進テ奮戦ニ遂ニ的場曲輪ヲ攻破ル于
時忠次カ從士石原孫次郎大屋喜助植田十兵衛尉芳
賀清助等先登シテ軍功ヲ尽ス芳賀清助石原孫次郎兩
人ヲ大神君御前ニ召テ
其功ヲ褒セラレ御方ナニ
五十貫ノ地ヲ加賜セラレ松平主殿即家忠進ニ戦テ多ク
首級ヲ得テリ家忠カ從士板倉左衛門尉忠重先

登ニ進ニ敵ノ勇兵ト向ヒ戦フ敵堀ノ中ニ敗シ入ル忠重
逐テ共ニ堀中ニ入テ遂ニ是ヲ討ツ於爰家忠カ從卒
板倉喜藏定重ヲ始テ精兵五騎戦死ス寄テ多
勢城ニ攻入ルノ間拒ク事ヲ得ス城兵悉ク戦ヒ死テ城
遂ニ陥ル城將岡部丹波守ハ大久保七郎右衛門尉忠世
カ從卒多ク主水正討テ其首ヲ得テリ城兵横田甚
五郎及ヒ相木ノ某ハ大須賀五郎左衛門尉康高カ陣
ト大久保七郎右衛門尉忠世カ陣ノ間ナル柵ヲ破テ遁
去ル高天神ノ城イニテ陥ラサル以前ニ内藤三左衛

門尉信成菅沼次郎右衛門尉ヲ召テ 大神君命有テ
 曰汝等二人国安ニ往テ陣スヘシ高天神ノ城陥ラハ撃テ
 洩ラサルノ城兵等必ス国安ニ敗シ来ラシ是ヲ待テ
 討留ムキノ御旨ヲ蒙テ内藤菅沼国安ニ往テ陣ヲ
 張ル 大神君ノ命ニ違フ敵国安ニ敗シ来ル内藤
 菅沼是ヲ悉ク討捕ル今日高天神ノ城ニシテ御味方
 ノ軍勢討取所ノ首凡七百三十余級信長カ援助
 部将佐ノ内藏助成政野ノ村三十郎是ヲ録シテ安土ニ歸

鈴木喜三郎

百三十八
 十五
 十八
 七ッ
 六ッ
 五ッ
 廿一
 七ッ
 五ッ

鈴木越中守
 水野国松
 本多作左衛門
 内藤三左衛門
 菅沼次郎右衛門
 三宅宗右衛門
 本多彦四郎
 戸田三郎右衛門
 本多庄左衛門

四十二
十六
百七十七
四十
二十二
六ッ
六十四
四十一
十九
十

酒井左衛門尉
石川長門守
大湊賀五郎左衛門
石川伯耆守
本多平八郎
上村庄右衛門
大久保七郎右衛門
榊原小平太
鳥居彦右衛門
松平上野介

一ッ
三ッ
一ッ
一ッ
二ッ
三ッ

松平玄蕃
久野三郎左衛門
牧野菅八郎
岩瀬清久
近藤平右衛門
鳥居儀左衛門

此内駿河先方精兵首級所謂岡部丹波守三浦右近
本森川備前守孕石和泉守朝比奈弥六郎近藤上兵衛
油井加兵衛油井藤太夫岡部帶刀松尾若狭守名郷源

太武藤刑部丞六笠彦三郎神應但馬守安西平右衛門安西八郎兵衛三浦雅樂助

栗田力從兵信州ノ士

栗田刑部丞栗田彦兵衛及ヒ第二人勝股主税助橋木庄左衛門山上備後守利根川雅樂助

大戸力從兵

大戸丹後守浦野右衛門江戸右馬丞

横田力從兵

土橋五郎兵衛福島本目助

六田能登守力從兵

五日美濃守と田左衛門と田武兵衛大子原川三蔵江戸力助

都合首數七百三十餘

三日昨夜高天神ノ城陥ル時城中ニ籠ル処ノ兵數百人討捕ラルト云ハ凡今日實檢ニ及テ城將等ノ首不旦アリ其外斃手洩ラカル、城兵等近辺ノ山林ニ隠レ居ル由其聞ヘ有、因テ諸將ノ命テ是ヲ探リ求メシメ至テ下卒等ハ數輩尋少シテ是ヲ討捕ルト云ハ凡吏

首ハ得ス

廿日大神君高天神ヨリ濱松ノ城ニ御凱旋アリ去年ヨリ高天神ノ城ヲ圍ハ諸将等ヲ召テ軍功ヲ褒セラレ各休暇ヲ賜テ居城ニ歸

六月大

廿八日大神君濱松ノ城御進發有テ見付ノ駅ニ陣シ玉フ

七月小

一日松平主殿助家忠命ヲ奉テ相良ニ兵ヲ貸ス

三日相良ノ取出ヲ欲セシメ玉フ

此月ヨリ武田勝頼甲州韭崎ニ城ヲ築テ新府中ト号ス

九月大

廿五日濱松ノ城經營ニ因テ家忠ヲ召ス家忠濱松ニ参候シテ城ニ登リテ大神君ニ謁ス

十月小

十四日濱松ノ城經營成ル

十二月小

十五日大神君馬伏塚ニ狩シ玉フ

十七日牧野ノ城ノ警衛西郷孫九郎家貞ニ代テ松平主殿助家忠是ヲ勤ム

十八日信長兵ヲ駁甲ニ出サンカ為西尾小左エハ為ヲ遣ミ糧ヲ給フ
ニ入ル

此月奥平九郎于時十五歳奥平信昌カ嫡子大神君ノ御前ニシテ元服ノ御

諱ノ字ヲ拜受シテ家昌ト号ス御太刀于時ヲ家昌ニ賜ル

此年大神君ノ御妹ヲ以テ松平玄蕃頭家清ニ嫁セシメ給フ

此年大久保五郎左衛門尉忠俊卒去八十一歳今年渡辺弥之

助 光ヲシテ且輕頭ニナサシメ給フ

家忠日記追加卷之六 終

